

【南の縄文文化発信事業（ワクワク考古楽）学習指導案】

令和6年4月19日（金）5校時14:15～15:00

霧島市立国分南小学校6年生88名

鹿児島県立埋蔵文化財センター

上浦・星野・宮崎

1 5校時指導案

(1) 目標

発掘調査成果を中心に、遺跡や文化財、資料などを活用して、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史に果たした先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

(2) 実際

課程	子どもたちの活動	時間	センター職員指導及び支援内容	準備・留意点
導入	1 埋蔵文化財センターの仕事について知ろう。 2 本時の目標をつかむ 縄文時代はどのような時代なのだろうか。	3	○ 埋蔵文化財センターの仕事について知り、その成果が普段の学習に繋がっていることを紹介する。	○ 発掘調査や整理作業に関するパワーポイント
展開	3 上野原遺跡を通して、鹿児島島の縄文時代について知る。 ・鹿児島島の土器→貝殻文が主 ・上野原遺跡→竪穴住居跡 集落跡 (国指定) 双子壺 (重要文化財)	15	○ 日本史年表から縄文時代を確認し、長く続いた時代であったことをつかませる。 ○ 国分南小に近い遺跡「上野原遺跡」について紹介し、全国的にも有名な遺跡であることを知る。 ○ 土層の写真や南九州の火山についてパワーポイントで示し、縄文時代の人々は火山に囲まれた生活をしてきたことをイメージさせる。	○ 上野原遺跡
	4 鹿児島や全国の発掘調査の成果から、縄文時代の暮らしについて知る。	16	○ 調査の成果から、研究が進み、縄文時代の生活が明らかになってきたことにふれる。 ○ 衣食住のカテゴリごとに確認していく。 ○ 貝塚の説明時に縄文海進についてもふれる。	○ 朱円遺跡 ○ 山王冨遺跡 ○ 国立博物館の展示
	5 実際に土器や石器にふれる。	8	○ 実際に発掘調査で見つかった遺物に触れてみる。	○ まいぶんキットや円筒土器、角筒土器
終末	8 本時のまとめをする。 縄文時代は ・自然とともに生きていた 火山 ・様々な工夫をしてくらしていた 道具・家・服・装飾品・食事調理方法	3	○ 縄文時代から、自分たちの住む地域には人々が暮らしていて、連綿と人々の生活が営まれてきたこと知る。 ○ 縄文時代について学習したことを振り返る。	

(3) 評価

- ・ 地域にある文化財や資料から、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、地域の歴史に果たした先人たちの働きについて理解できたか。

